

## 「おじいさんの笑顔」が大切 田舎でも貴重な娯楽場だから

中部支部事務局長 眞野年之



全を確保するという、前職の防犯という仕事と共通するところがあると感じました。

また、のめり込み・依存症対策の一つとして、昨年8月8日の大変暑い中、

山口支部長を先頭に、地元警察署等の協力を得て、撲滅キャンペーンも行うことができました。今後、この様な活動を継続的に行い、安心して遊技ができる環境作りに少しでも尽力できればと思います。

さて、遊技人口の減少が続く、将来に向けた様々な活性化対策がなされています。パチンコは、代表的な大衆娯楽として、若者からお年寄りまで親しまれています。これは、都会だけでなく地方の田

舎でも同じだと思えます。私の住んでいるところは、山間地の田舎ですが、それでもパチンコ店が2店舗あります。コンビニ店が3店舗です。そんな割合かなという感じですが、地域唯一の娯楽場という事です。



るのかなと思えます。

実は未経験の私は、そんなパチンコ店というのはどんなところか気になり、昨年妻と二人で初めて訪れてみました。店はこじんまりとして遊技台は多くはないですが、それでもパチンコもスロットもありました。お客さんは時間帯のせいかな数人しかおらず、それだけ見ると店の経営も厳しいかなという感じでした。しかし、遊技している人は家族のような人もおり楽しんでいる様子が伺えました。

私も妻も楽しむ時間は少なく、あつという間に終わってしまいました。でも、おじいさんが楽しみに来ていた娯楽場を知ることができたと思いましたが、妻が一言「もう少し遊ばせてくれるとね」と言います。苦笑しながら、それも確かだと思いました。

地域によって規模の大きさ等も様々ですが、ファンの一人でも「また行こうかな」と思える、地域に根ざした大衆娯楽場が増えるよう少しでもお力添えができればと思っております。

決して、距離は身近とは言えませんが、おじいさんにとって、身近な娯楽だったのです。パチンコの結果は知りませんが、知り合いかから、「どうだった、調子は」と聞かれると「まあまあ遊べた」と満足そうに話している顔に心からの楽しさを感じました。今は転居して姿を見ませんが、どこかで嬉しそうにパチンコを楽しんでいる

皆さんこんにちは。中部支部事務所長の眞野(まの)です。日遊協生活は今年の4月で3年目を迎えます。出身は、愛知県の豊田市で警察官として愛知県警察に42年間勤務しました。

日遊協は、業界の横断的な組織だと言われますように、その業務は幅が広く、その中でも取扱主任者の講習・試験では、受講者の皆さんの真剣な姿に大変驚きました。ゴト対策、セキュリティ対策については、犯罪の防止という点から遊技客の皆さんや地域住民の安



行政の協力も得て車内放置防止キャンペーンに出かける